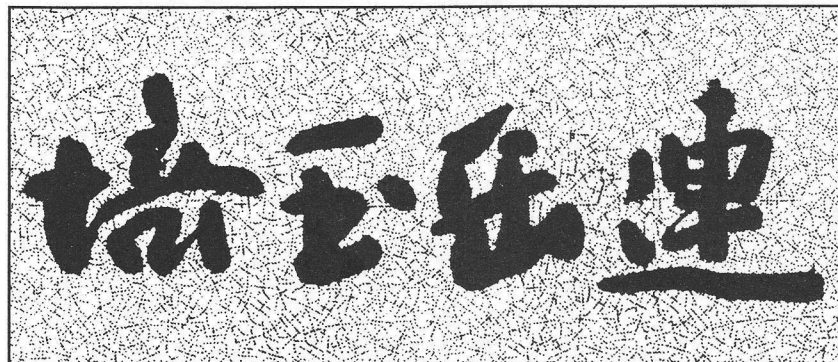




埼玉県山岳連盟
埼玉岳連報 第20号

発行者 田中 文男
発行所 埼玉岳連事務所 福田靖方
〒369-0303
埼玉県児玉郡上里忍保1590
編集人 広報委員会 岩井田 正昭
発行部数 1600部

《成功させよう59” 埼玉国体》

縦走競技『秩父・武甲山』：『小鹿野・観音山』&クライミング競技『加須』

武甲山縦走競技 影森小学校より山頂を目指してスタート



平成16年度新役員が左記のように決定しました
埼玉県山岳連盟・平成16年度役員 ※新任

名誉会長 浅見 豊 (恵流峰会)
参事 大沢 亮一・井上 守司・野井 篤

・北千恵吉 (小鹿野山岳会) ・井古忠男 (本庄山の会)
・北田 紘一 (浦和西岳友会) ・新井 宏司 (奥武蔵WV)
・大野 好司 (高体連)

会長 田中 文男 (浦和山岳会)

副会長 中田 弘 (浦和溪稜山岳会)

副会長 武井 正男 (深谷山岳会)

副会長 森下健七郎 (高体連)

監事 佐藤 求 (あゆむ山の会)

監事 内野 安登 (エコー山の会)

監事 福田 靖 (たらっぺ山の会)

理事 大谷 明 (高体連)

理事 村岡 正巳 (加須C・C)

理事 加藤 富之 (深谷山岳会)

事務局 長 加藤 富之 (深谷山岳会)

《専門委員会・委員長・理事》

指導委員会 野村 善弥 (あゆむ山の会)

クライミング委員会 大倉 至 (高体連)

国体委員会 長谷川 茂 (熊谷山岳会)

選手強化委員会 大谷 明 (高体連)

遭難対策委員会 瀬藤 武 (浦和溪稜山岳会)

海外登山委員会 天野 賢一 (遠峰山岳会)

自然保護指導委員会 山口 定男 (我逢人 信越山の会)

ジュニア委員会 小沢 直宏 (高体連)

広報委員会 岩井田正昭 (あゆむ山の会) 委嘱

企画委員会 村岡 正巳 (加須C・C)

59国体実行委員会 平沼 伸一 (小川山の会)

50周年記念事業実行委員会

担当副会長 武井 正男※ (深谷山岳会)

実行委員会 牧野 要雄※ (浦和溪稜山岳会)

連盟事務所 〒369-0303 埼玉県児玉郡上里町忍保1595

電話・FAX 0495・33・8563 福田 靖方

事務局・文書送付先 〒370-0421 群馬県新田郡尾島町柏川甲522

電話・FAX 0276・52・1276 加藤 富之方

【平成16年度評議員総会】議事録

期 日：16年5月29日(土)

PM1:00～PM2:30 総会

PM2:30～ 顔合わせ・懇親会

会 場：北本市文化センター・3F会議室
出席者：委任状提出名

【評議員】計44名(敬称略)

内野(委)、庄司(委)、三ツ木(代)、田中、掛川、佐藤、飯島、芝田、国谷(代)、宮坂(代)、小川、山口、原(委)、宮野(代)、井上、小高、宮田、長谷川、湯本(委)、熊谷(委)、逸見、井上(委)、磯田(委)、大平(委)、中島(代)、原(委)、新井、内野、大澤(委)、平野(委)、柳下(代)、平沼(代)、岩崎(代)、板橋(代)、大倉、大谷、古峰、矢萩、土屋、岩波(委)、長村(代)、柳原、岩崎(委)、中川(委)

※注・(代)代理出席、(委)委任状提出

※欠席届者：計3名(敬称略) 岩武、北田、澤田、

【理事等】計13名(敬称略)

牧野、中田、烏、瀬藤、野村、堀江、天野、加藤、福田、計良、村岡、澤田、(委嘱) 岩井田

1・開会の言葉：福田理事長

2・会議成立宣言：司会 加藤事務局長

(会議成立状況・規約第26条)定足数の1/2以上で成立

議決権数：60名(団体)のうち44名参加成立。

3・会長挨拶：田中会長

4・議 事

議長選出：執行部一任の賛成多数により選出決定

：加須スポーツライミングクラブ：古峰会長

第1号議案：平成15年度事業総括報告：加藤事務局長

事務局長：加藤事務局長

指導部：野村部長

競技部：村岡理事(部長代理)

遭難対策部：瀬藤部長

海外登山部：鳥部長

自然保護部：山口部長

広報部：岩井田部長

59国体実行委員会：平沼委員長

国体選手強化委員会：大谷委員長

※賛成多数により承認・可決

第2号議案：平成15年度決算報告：加藤事務局長

決算報告：田中会長・(報告) 加藤事務局長

会計監査：審査の結果、適正であることを認めます。

監事 小高 英雄・芝田 信子

※質疑なし・賛成多数により承認・可決

第3号議案：平成16年度・17年度役員：会長は執行部案を福田理事長が提案。副会長は会長一任による。

会長：田中 文男

副会長：武井 正男・森下 健七郎・中田 弘

※質疑なし・賛成多数により承認・可決

理事会の報告として

理事長：福田 靖・副理事長：大谷 明

副理事長：村岡 正巳・事務局長：加藤 富之、

以上を決定した。

新役員抱負・代表挨拶(田中会長)

県岳連組織の強化・国体の成功・50周年事業・

遭難対策事業の強化・一般市民を対象とした事業

育成・財政の確立・等を目指して取組んで行かな

ければならない。会員の一致協力を望む。

第4号議案：平成16年度事業計画：加藤事務局長

今年度より部会制度を廃止し、委員会制度に切替

した。今後は各委員会に於いて事業を計画立案、

報告決算することを行動指針とする。

事務局長が全委員会について代読説明。

事務局：加藤 富之(深谷山岳会)

指導委員長：野村 善弥(あゆむ山の会)

国体委員長：長谷川 茂(熊谷山岳会)

クライミング委員長：大倉 至(高体連登山専門部・東)

遭難対策委員長：瀬藤 武(浦和溪稜山岳会)

自然保護委員長：山口 定男(我逢人 信越山の会)

海外登山委員長：天野 賢一(遠峰山岳会)

ジュニア委員長：小沢 直宏(高体連登山専門部・南)

広報委員長：岩井田正昭(あゆむ山の会)

企画委員長：村岡 正巳(加須SCC)

59国体実行委員長：平沼 伸一(小川山の会)

※新設：企画委員長挨拶：埼玉岳連のデーターベース化・

組織の強化・財政のバックアップ・国体向けミニプログラム

作成等を行い今年度の事業展開をしたい。

※注(氏名は専門部局長及び委員長・所属会名)

※質疑なし・賛成多数により承認・可決

第5号議案：平成16年度予算案：加藤事務局長より説明

※質疑なし・賛成多数により承認・可決

その他：加藤事務局長・補足説明

山岳連盟業務組織・所属確定理事のみ委員会名簿に積載

加盟団体加入の件・16年度は報告済み60団体でスタート

国体競技役員養成研修会の件・

国体日程変更の件・開始式の中止、総合開会式への参加等

※質疑：小高氏より理事の変更依頼あり

他の質疑なし・賛成多数により承認・可決

会議終了に伴い：議長の任を解く。

5・閉会の言葉：森下副会長

：高体連との連携融合を深め県岳連の発展を!

(埼玉県・高体連加盟団体数約90校・全国第一位)

平成16年5月29日

議事録署名人：正 加藤 富之

：副 岩井田正昭

【Partir】

企画委員長 村岡正己

スキー場でリフトの順番を待っていると崖からエクストリームの奴らが飛び降りてくる。15メートル以上はあるだろうか。上手く着地する者、すつぽりと深雪に埋る者。そして上手かった奴には拍手、失敗した奴にはブーイングで応える。これは、私がウイスラーのザ・ピークというリフト乗り場で見た光景。

「気持ちよく遊ぶ」が演じるものとその周りで見るものが上手く融合している。日本のスキー場の中ではとんでもないこと。

こんなイケイケの奴らを温かく見守れるのは、冒険への敬意なのだろうか。そしてグレレンデを降りるとホテルではなく、カフェバーへ直行。そこで今日の成果を自慢する。ここでは、スキー以外の話でも盛り上がる。彼らは、色々なアクティビティをこなしている。そしてアウトドアをとことん楽しむことも上手だ。「ここ何日は、天気が悪そうなのでバンフに移動して、アイスクライミングをやるよ」「俺たちは明日はグレートウォール（クライミングジム）で過ごすよ、なんて話もでてる。こんな楽しみ方ができるのは、環境はもちろんアウトドアスポーツ文化のレベルの違いだろうか。

一方日本でも色々な山をフィールドとするアクティビティは、多くなってきた。『山歩き』『沢登り』『岩登り』『冬山』『アイスクライミング』『冬季登攀』『スポーツクライミング』『ボルダリング』『キャニオニング』『MTB』『パラグライダー』『山スキー』『バックカントリー』『エクストリーム』『トレイルラン』・・・

あげれば限りが無い。但しこれらを山岳会としてどこまで取り上げて活動の一環としているだろうか？もちろん今までの山岳会的な概念ではそぐわないものもある。パラグライダーなどは、山岳関係の団体から別の競技団体へ移っていったものもある。ヨーロッパではパラの山岳フライトは、山岳関係のカテゴリーに入っているそうだ。キャニオニングも同様。

今日本では、山岳会への入会者が減少。そして高齢化の進行。このままでは、どこかの国と同じ。これらの原因はいろいろあると思いますが、現在の多様化のなかで山岳会に魅力を感じられないからではないだろうか？

今回埼玉山岳連盟に企画委員会が発足されました。その事業をまだ具体的に発表するには至っていませんが、埼玉岳連を「時代に即したもののへ」という課題に取り組んでいく必要があると考えています。

そのために今年度は、埼玉県の各山岳会の現状把握を行い、埼玉岳連のデータベースを作成する計画です。

そしてこれらをオープンにすることによって、岳連加盟団体以外の登山者やスポンサー企業との接点を増やせると考えています。

最終的には、競技団体として広く市民に知っていただくためにも体験会から日本一を競う競技までさまざまな普及活動をバランスよくやっていくことが大切。そしてこれらの事業を各委員会と合同で進めていくつもりであります。

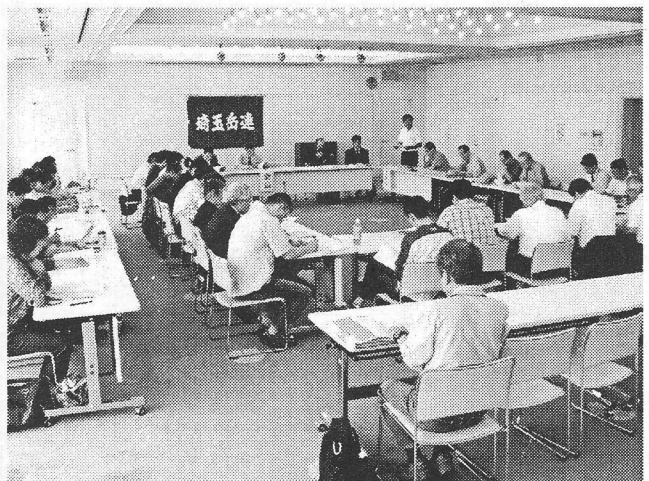
最後に、Partir したばかりの企画委員会、非力ですが皆様のご協力をいただきながら、埼玉岳連の発展に寄与してきたいと思います。よろしくお願いいたします。



埼玉岳連 田中会長の挨拶



田中会長を囲んで全評議員・理事の記念撮影



16年度評議員総会会場にて

平成16年度 埼玉県山岳連盟・加盟団体 h16年6月20日現在

NO	団体名	所属岳連	代表者名	派遣理事名	事務局	NO	団体名	所属岳連	代表者名	派遣理事名	事務局
1	川口市登山同好会	川口市	内野 操	花原 美寿	相沢 重夫	31	岩桜登高会	秩父	小池 栄次	小池 栄次	吉川 仁
2	グループ・ド・ピオレ	川口市	鈴木 正広	鳥 辰克	菅野 修一	32	本庄山の会	本庄市	高橋 哲也	黒沢 猛	小林 文武
3	日産ディーゼル山岳部	川口市	岩武 成秋	桜井 茂	岩武 成秋	33	槻岳友会	岩槻市	大平 征徳	仙波 義雄	中村喜三郎
4	川口市役所山岳会	川口市	庄司 芳幸	境沢 孝弘	黒澤 剛成	34	越谷市山岳会	越谷	黒田 重晴	鈴木 正一	鈴木 正一
5	蕨ハイキングクラブ	蕨市	中澤 恒美	三ツ木達男	石塚 文雄	35	東部登高会	春日部市	原 久三	計良 寿彦	及川 五良
6	浦和山岳会	さいたま市	田中 文男	田中 文男	安島 雅文	36	奥武蔵 ワング・フォーゲル	飯能市	新井 宏司	新井 宏司	新井 宏司
7	浦和溪稜山岳会	さいたま市	掛川 統之	瀬藤 武	牧野 要雄	37	新電元工業山岳部	飯能市	澤田 正博	関口 実	関口 実
8	浦和山友会	さいたま市	新井 逸夫	関根 善昭	関根 善昭	38	所沢市役所山の会	所沢市	粕谷 隆夫	※	※
9	浦和西岳友会	さいたま市	北田 紘一	渋谷 直克	渋谷 直克	39	エコー山の会	所沢市	内野 安登	松尾禎次郎	松尾禎次郎
10	あゆむ山の会	さいたま市	佐藤 求	野村 善弥	佐藤 求	40	東松山山岳会	東松山市	福田 義夫	※	福田 義夫
11	浦和浪漫山岳会	さいたま市	飯島 雄二	飯島 雄二	飯島 雄二	41	ボッシュ山岳部	東松山市	大澤 靖一	石川 浩行	石川 浩行
12	JACSEM	さいたま市	田口 憲司	金子 身雪	田口 憲司	42	毛呂山山岳会	入間地区	平野 新一	野口 博	平野 新一
13	桜草山の会	さいたま市	芝田 信子	堀江 伸子	芝田 信子	43	山岳同人埼玉	入間地区	尾崎 正義	柳下 明男	柳下 明男
14	遠峰山岳会	さいたま市	小沢 直宏	天野 賢一	天野 賢一	44	小川山の会	小川町	森田 富夫	平沼 伸一	久保 功夫
15	大宮山岳会	さいたま市	松崎 達	塩谷 壽子	松崎 達	45	戸田山の会	戸田市	大野 幾雄	岩崎 繁夫	岩崎 繁夫
16	大宮岳稜会	さいたま市	石黒 明	鈴木 一美	東川 征夫	46	蓮田山の会	蓮田市	熊谷 潔	熊谷 潔	熊谷 潔
17	J R大宮工場山岳部	さいたま市	小川 晃	知久 隆	知久 隆	47	江南山の会	江南町	瀬山 明	柳澤 吉伸	牛山美津子
18	我達人 信越山の会	さいたま市	山口 定男	山口 定男	山口 定男	48	高体連登山専門部	高体連	森下健七郎	大倉 至	大倉 至
19	山と自然を 楽しむ会	さいたま市	原 秀夫	※	細田 倫範	49	加須スポーツ クライミングクラブ	加須市	古峰 孝	村岡 正己	村岡 正己
20	桶川山の会	桶川市	森 良治	森 良治	森 良治	50	B7 (ボルシチ)	加須市	矢萩 実	矢萩 実	矢萩 実
21	深谷山岳会	深谷市	武井 正男	加藤 富之	武井 正男	51	加須クライミング クラブ・ピナ	加須市	土屋 正昭	土屋 正昭	土屋 正昭
22	たらっぺ山の会	深谷市	井上 仁	福田 靖	坂田 文男	52	本田技研 埼玉山岳部	単会	岩波 孔明	岩波 孔明	岩波 孔明
23	熊谷アルム ハイキングクラブ	熊谷市	小高 英雄	武笠 正夫	小高 英雄	53	石ころの会	単会	澤田 光昭	長村 昭男	長村 昭男
24	壁稜山岳会	熊谷市	宮田 征治	桜井 勝伸	宮田 征治	54	小鹿野山岳会	単会	柳原 政一	柳原 政一	※
25	熊谷山岳会	熊谷市	長谷川 茂	長谷川 茂	長谷川 茂	55	MAS (Mountain Athletes in Saitama)	単会	大谷 明	佐藤 豊	佐藤 豊
26	熊谷岳友会	熊谷市	湯本 昇	石川 義伸	石川 義伸	56	無名山塾	単会	岩崎 元郎	工藤 寿人	岩崎 元郎
27	熊谷山旅会	熊谷市	熊谷 季久	森田 啓太	熊谷 季久	57	獨協大学・山岳会	単会	中川眞ノ介	斉藤 尚之	松崎 淳
28	恵流峰会	秩父	逸見 昭三	瀬戸 朋義	逸見 昭三	58	幸手山岳会	幸手市	長沼 勇	長沼 勇	金子 松美
29	吉田山岳会	秩父	井上信太郎	新井 時夫	宮本 功	59	城西大学・ 体育会山岳部	入間地区	関 正太郎	※	※
30	阿神山岳会	秩父	磯田 芳男	斎藤 完司	磯田 定志	60	埼玉医科大学・WV	入間地区	西条 聡	※	※
						61	森の夢童武 創造センター	入間地区	横山伊佐夫	※	※

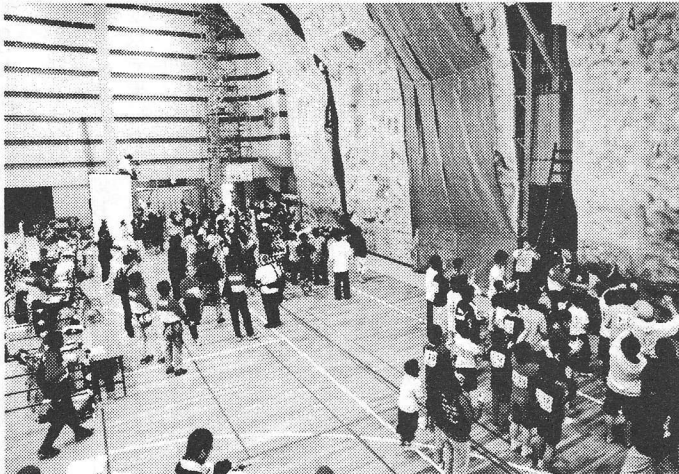
※未確認

【彩の国まごころ国体山岳競技会】

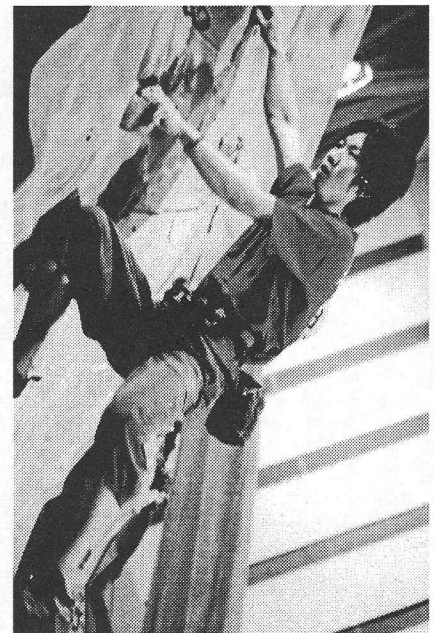
リハール大会・加須市実行委員会

第5回KAZOクライミングカップ2004

ゴールデンウィークが明けた5月8日(土)、第59回国民体育大会(彩の国まごころ国体)山岳競技会のリハールを兼ねた第5回KAZOクライミングカップ2004大会が加須市民体育館で開催された。また、同日秩父市、小鹿野町においてもそれぞれ縦走大会が開催され、各会場での記録・集計等を大会本部となる加須市バストラルかぞへ通信機器を使つてのテストを行うなど本番を想定したリハールが行われた。加須市では大会の3日前に加須市山岳連盟によるクライミングウォールについている千数百個のホールド外しから準備は始まり、ルート作り、大会をはさんでの競技運営研修会などあつという間の6日間であつた。



準決勝・ワザバージョンに盛り上がりを見せるC会場。
改装した場内は照明も明るく華やかな会場となった



【第5回KAZOクライミングカップ2004大会の規模】

□ 参加選手：申込者116名、出場選手100名(1都1

8県北は岩手県、南は長崎県

□ カテゴリー：ジュニア、ビギナー、ミドル、エキスパート(7歳から63歳)

□ 競技役員：50名、競技補助員30名

□ 加須市実施本部係員：約120名 総合計300名

初めての試みとして

1：クライミング競技会場の様子をバストラルかぞ大会本部

で映像で見られるパソコンシステムの設置

2：競技記録の簡略化と仮発表をスクリーン映像。

3：照明及びスポット照明位置テストの実施。

など先催事にはない試みを積極的に行っていく山岳先進県埼玉らしい取り組みがなされた。最終日、各部の反省会においても問題となる大きな変更事項はなく細かな注文、要望があつた。その中でいくつか紹介すると例えば、選手の競技終了後に着替える場所の設置・スポット用マットが必要競技役員用ウェアが大きいなどがあげられる。



実施本部も開店・事務局も緊張が高まる

また、加須市として、競技以外の運営を支える実施本体制を加須市大橋助役を本部長としてスポーツ団体、ボランティア、市職員等126名で組織した。ここでも各部各班で反省事項が多く寄せられ、特に開会式については受付・開会式・競技開始といった流れがうまく伝わらず、式典内容・タイムスケジュール等、を見直し整然とした式典(本大会では歓迎式)とする必要があると感じている。現在、市では今回のリハール大会での各関係者からの要望事項について整理し、10月に迫った本大会に向けて再出発したいと考えている。

そして、選手が存分に力が発揮でき、観客の皆さんには気持ちよく観戦いただけるよう準備体制を整え、本大会の成功に結びつけていきたい。

今後とも埼玉県山岳連盟各位のご理解ご協力を以前にも増してお願ひしたい。

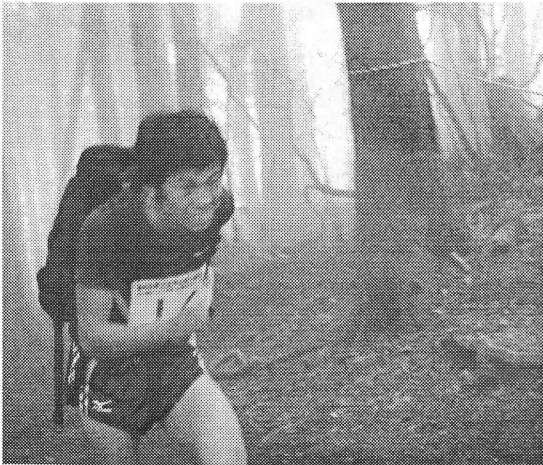
【第8回秩父武甲山登山競走大会開催】

5月8日(土)、第8回秩父武甲山登山競走大会(彩の国まごころ国体山岳競技リハーサル大会)が秩父武甲山縦走競技会場において盛大に開催されました。

曇り空で向かえた当日は、国体本大会を控えた選手たちが全国から集結し、スタート会場の影森小学校から武甲山山頂のゴールを目指し、熱戦が繰り広げられました。そして競技役員、競技補助員をはじめ、秩父市実施本部係員やボランティアの協力員たちが力を合わせ、本番さながら、運営に携わっていました。

秩父市では、ちょうどこのリハーサル大会が開催されたところは、羊山公園の芝桜への来客数が98万人を突破しました。ゴールした選手の中には、芝桜の風景を武甲山山頂からご覧いただいた方もいらしたかと思えます。今回のリハーサル大会を振り返り、10月に行われる本大会がさらによりよいものとなり、成功をおさめられるよう本大会に向け、各関係機関等と調整を図りながら、今後準備を進めてまいりたいと思います。

(彩の国まごころ国体秩父市実行委員会・担当者)



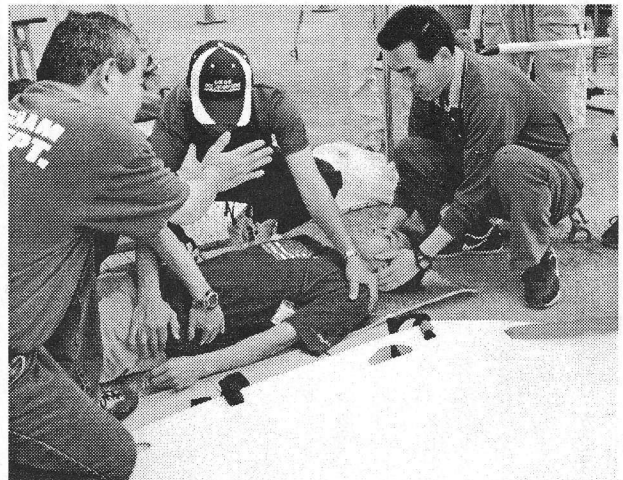
霧の中を劇走!ゴールをめざす

【リハーサル大会を終えて】

彩の国まごころ国体小鹿野町実行委員会 島崎 健司

5月8日(土)に彩の国まごころ国体山岳競技リハーサル大会兼埼玉県国体選手選考会(小鹿野町観音山登山競技大会)が開催され、多くの方々のご協力により無事に終了する事が出来ました。

当日は時折薄日が差すという選手には絶好のコンディションとなり少年男子が午前10時に、少年女子が午前10時30分に日尾運動場をそれぞれスタートし、新緑の観音山を舞台に秋の本大会の出場を懸けた戦いが始まりました。大会には地元小鹿野高校からも3名の選手が出場し、各地点から送られる通過情報により小鹿野高校の高田博文選手が先頭通過の放送を聞いた際に会場から大きな声援と拍手が起こりました。結果は、少年男子は小鹿野高校の高田博文選手が圧倒的な強さで見事優勝し、本大会に向けて埼玉県強化選手に選ばれ、強化委員長の大谷先生より記念のザ



T1コース途中のアクシデントに備え応急手当のリハーサル風景
指導する遭対・恵講師とスタッフ達



T2スタート会場にて開会式を行う関係者

ックと鉛が渡されました。また、少年女子は不動岡高校の葛西絃子選手が強化選手の実力を発揮し優勝しました。

今大会は秋の本大会を見据えたリハーサル大会でもあり競技役員、運営研修会でもあります。日尾運動場ではテントの配置や周辺のレイアウトなど本番と同様な準備を行いました。また、町職員で構成する実施本部係員や、競技運営の補助員など総勢約300人の方々に、ご協力を頂きました。今回、初めて縦走競技を見る方も多かったと思いますが、競技の流れや役員個々の動きなど多少なりとも理解出来たのではないのでしょうか。

大会を終えて文化センターホールにて反省会を行いました。各役員から多くの反省事項や問題点を発表され、本大会に向けて多くの課題も判明しました。今後は、T2競技役員と連携を図りながら一つ一つ問題を解決し、秋の本大会では全国から訪れる監督・選手を心から迎え、思い出に残る大会になるようにしたいと考えております。

【加須の壁】

堀 創

私が、この加須の壁をコンペで登ったのは今回が、3回目だ。1回目はクライミングを始めてまだ間のない頃に出たジュニアオリンピックだ。大きなアリーナの一面を占めるウォールの大きさにびっくりもしたし、この壁で練習できる加須の人たちがうらやましくも思えたものだ。そして昨年は、初めて加須カップに出場した。一般の人たちも参加する大きな大会での決勝進出を目標に頑張った。目標どおり予選は突破したものの、決勝では自分の気持ちを高められずに自分らしい登りができず、悔しい思いが残った。

今回の加須カップ出場にあたり、私は、勝つことにはこだわらず、登ること自体を楽しむことを目標にした。それは今までのコンペでは、ブレッシャーに負けたり、冷静さに欠けたりして、自分の力を発揮しきれないことが多かったからだ。

そのルートを登って登りたいという気持ちが高まって、しかも冷静に登ることができたら、結果は後から着いて来るのだと思う。そのため、普段の練習でも、楽しく登ることを心がけてきた。岩場でのクライミングもたくさん楽しんできた。もちろん、足使いの練習や保持力、持久力アップのための練習は続けてきた。大会では、予選はオブザベーションがうまくいかなかったものの、落ちていて登れたので完登することができた。

決勝では、予選のミスの反省で、オブザベーションに集中した結果、なんとなく完登できるようイイメージを持って登ることができた。ルートは加須の大きなウォールを生かした、アップダウンのある長いもので、心の中で「レストしていけ」と言い聞かせながら登った。

そして、スーパーフイナル。初めてのスーパーフイナルに、不安とどんな課題なのかというわくわくした気持ちとが混ざった不思議な気持ちになった。オブザベーションを含め8分で登るという初めてのルールに戸惑ってルートを的確に読むことができずにトライしてしまい、パニック状態で落ちてしまったが、結果は優勝。

うれしかった。この秋には、いよいよこの加須のウォールで国体が開かれます。私は中学生のため、まだ出場はできませんが、宮城県チームを含め選手の方々の健康を祈っています。

※編集注 クライミング・カテゴリー：エキスパート・優勝

【リハールサル国体の感想】

鴻巣高等学校山岳部 金井 健一

私は、59国体リハールサル大会(KAZOクライミングカップ2004ミドルクラス)で優勝することができました。

この大会で今まで練習した成果を全て出し切ることができた結果だと思っています。優勝できたことも嬉しかったのですが、自分の力を全て出し切れたことが、すごく嬉しかったです。また、私はこの優勝によってかなり自分の力に、自信を持つことができた様になったと思っています。

しかしこの結果に満足しているわけにはいきません。なぜなら私には59国体に出場するとして出場するという最終目標があるからです。国体に出場するために越えなければならぬハードルはまだまだあります。

わたしはまだまだ実力、経験共に不足していると思います。

この優勝で得た自信をバネに、もっとも練習を重ね、国体に出場できるだけの実力と、経験を付けていきたい、と思います。

※編集注 クライミング・カテゴリー：ミドル・優勝

【あと4手】

伊藤 太一

あと4手、私はこれまで見たことも触れたこともないホールドを目にした。黒く横に細長いホールドだ。

あと4手で完登なのに、今もっているホールドからかなり遠い。腕がパンプしてきた。これで落ちるぐらいなら私は持っているホールドから思いきって上のホールドに飛びついた。結果、黒いホールドを保持することができず私は落ちてしまい完登を逃がした。ファイナルが終わった。

私は普段、宮城にあるクライミングジム・ピーナッツでトレーニングを積んでいる。クライミングを始めて、まだ半年だが完全にそのとりこになって、楽しくて、楽しくてしょうがない。今回、リハールサル大会に出場したのは、他の人の、登りを見たいという理由と自分がどれだけ登れるのが楽しみで出場した。周りの人は上手な人が多くてとても勉強になった大会であった。特にエキスパート部門のファイナルは、15人という大勢で行われとても白熱していた。今年の国体出場を目標にトレーニングに励みたいが、まだまだ自分には力不足で、課題がたくさん見つかった大会であった。とても有意義な一日を送れてとても楽しかった。この場を借りてスタッフの皆さんにお礼を言いたい。これからももっともつと上手になってまた加須に戻ってこられるようにがんばりたいと思う。

※編集注 クライミング・カテゴリー：ビギナー・優勝

【KAZOクライミングカップに出場して】

羽鎌田 直人

僕は11歳ですが、クライミングを始めて約8年になります。コンペティションに出場するようになって1年ほどになり、今回の大会が12回目でした。

大会が始まって、アイソレーションルームで出場の順番を待っているとき、だんだん緊張してきました。

けれども予選のルートは、思ったより簡単でした。でも、最終ホールドに指先しかかからなかったときヒヤッとした。でも、完登できて決勝に進むことができました。

決勝のルートは、あと1手で落ちたので悔しかったのですが、それでも優勝できたので嬉しかったです。

僕は、まだ小学生で国体には出られませんが、こういう大会があるとクライミングをする子供が増えて、数年後の国体に参加する仲間が多くなるだろうと思います。

※編集注・クライミング・カテゴリー：ジュニア・優勝

【リハーサル大会に参加して】 内田 礼子

リハーサル大会前日に武甲山の試走にいきました。初めて登る山だったのでどんなコースなんだろうと思いつきながら登っていくと、まず給水所からのジグザクに登っていくコースに驚き、少し楽になったと思ったら次は急な登りになりそこで一気に標高があがるので選手にとってはかなりハードなコースだなと感じました。

大会当日は10kgの負荷を背負って登りましたが非常にきつかったです。でもとてもすばらしいコースと思いました。彩の国まごころ国体だけあって現地の皆様にはとても親切に対応していただいたことがうれしかったです。秋にはまた埼玉の武甲山に登れるように激しい予選を勝抜たいと思います。

また彩の国まごころ国体が成功することを心から願っています。

※編集注・国体リハーサル大会・成年女子縦走T1・優勝

【山岳競技に出場するうえで苦労したこと】

小鹿野高等学校 高田 博文

僕が山岳競技に初めて出場したのは昨年の11月16日に開催された大会でした。その大会にでる前はどんな大会なのかわかりませんでした。5キロのおもりが入ったザックを背負ながらまともに走れるだろうか不安になりました。なぜなら一度もザックを担いだ状態で走ったことがなかったからです。僕はあまり山道を走るのが得意でなかったけど、あきらめずにがんばりました。そんな中、大きなアクシデントが起きました。走っている途中、道に迷ってしまったのです。ゴールしたときは川越東高校の丸橋君と6分も差がついてしまいました。あのとき、途中で道に迷ったことが今でも悔い残ります。

僕は、アクシデントがあったものの負けてしまったことに悔しくて、その大会が終わった後、何度も何度も山岳コ

ースを走りました。冬はいろいろな大会に参加して走ったり、学校の近くの山を走り込んだりもしました。そして、5月8日、今回の大会で僕はまた山岳競技に参加することになったのです。丸橋君には今度こそ勝とうとがんばりました。スタートしたとき、僕は集団の真ん中でした。最初の山を登るとき、横に並んで先に行きました。

昨年の悔いが残っていたので、今度こそ道を間違えないように注意しました。だんだんと背中のおもりの負担が大きくなり、体力的にきつくなりました。上りもペースが落ちてしまいました。でも、絶対優勝して、国体に出るんだと自分に言い聞かせました。

昨年の大会で優勝した相馬先輩のタイムを2分更新して優勝することができました。丸橋君もやぶることができました。つらい練習に耐えて、そして、大会でよい結果を出せたので、今まで自分に自信を持てないところがあつたけど、少し自信を持つことができました。国体ではおもりにも耐えられるように体力を強化し、テンポよく走りたいと思います。みんなの期待に応えられるように国体ではがんばりたいと思います。

※編集注・国体リハーサル大会・少年男子縦走T2・優勝

【自分への挑戦】

葛西 紘子

今回のリハーサル大会において優勝を勝ち取ることができたのは、たくさんの方の応援やサポートがあつたからだとおもいます。

私の家から国体が行われる小鹿野まではとても遠く、車で二時間ぐらいかかってしまいます。そんな中でも毎月行われる練習会に参加し、コースに慣れることができたのは小鹿野町まで送り、登り方などのアドバイスをくれる顧問の先生のおかげです。それに励まし合いながらともに練習をやっている仲間がいることが何よりも心強く、自分を支えているものだとおもいます。



周回コースのスタート・ゴール会場となった日尾運動場に一位選手のゴール

競技の中でもっとも過酷だと言われている縦走は、自分との戦いです。しかし、走っていく上で肉体的にも精神的にもつらくなる観音山の頂上で、ふと周りの景色を見ていると素晴らしい景色が広がっていて、とても清々しい気持ちになります。それに登りきったという達成感と爽快感を味わうことができ、どんなに苦しくても景色や山頂の空気に触れられるので疲れが一気に解消されます。

このようなことが体験できるのは縦走の魅力だと私は思います。ゴールまでの道のりは容易ものではありませんが、自分に負けぬよう走り続けていきたいです。

「縦走」という競技はあまり知られていないのが現状ですが、これからいろんな人に知ってもらい、楽しさを味わってほしいと思います。

※編集注・国体リハーサル大会・少年女子縦走T2・優勝

【自然保護指導員総会】自然観察会・研修会報告

県岳連 広報委員長 岩井田正昭

5月22日：川越・秩父・ぶどう峠・四方原山（途中・山菜採取）採取した山菜（こしあぶら・ぜんまい・ワラビ・ウド・山葡萄の芽など）を信濃わらび山荘・山菜料理食事・総会懇親会

5月23日：朝食後・高登山山観察班・下山班に分かれて解散。

自然保護指導員の資格を持ちながら一度も総会に出てない為、岳連報の取材をかねて今回初参加した。当日「戸田山の会」岩崎会長の車に乗り込み途中、秩父市役所前で「恵流峰会」浅見さんと御同行することになった。市内を抜け吉田町より群馬県側を経て、ぶどう峠経由で四方原山へ向かう。

標高1500Mぐらいの静かな山間を抜け林道を進む。林道終点に車を置き、全員で山頂へ向かい途中山菜を取りながら約30分位で到着。山頂で小休止帰路、林を分け入って山菜を取りながら下山（崖縁に咲いた山芍薬に出会う）途中、浅見さんと歩きながら所属される《恵流峰会》会名由来について大変貴重なお話を伺い、楽しい山歩きだった。山荘に戻る。山荘の炊事場にて岩崎会長の用意した道具で山菜料理を作ることに、全員で手際よく始め、山菜のウドサシミ・テンプラ料理に舌づつみをうった。

PM5:00ごろ後発の「蓮田山の会」熊谷会長以下大勢が到着。持参した山菜を又テンプラにする。山菜は調理して、夕食後の懇親会ツマミにする。

総会には県内から集まった約50名近くの役員・会員が参集三ツ木理事の開会の挨拶後、日山協・浅見副委員長《恵流峰会》の来賓挨拶があり総会が開催された。1号議案から6号議案まで成立し約2時間の総会・研修会は終了。

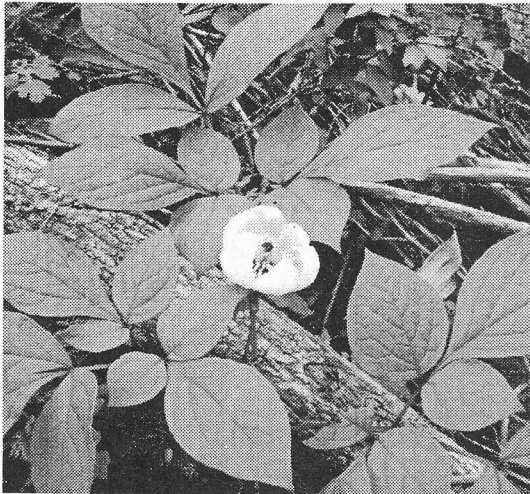
研修会の中では環境問題について多くの意見、問題提起があり参加者の意識が高まっているのが印象的だった。奥武蔵清掃登山についても忌憚ない意見が多数寄せられ、以下の話題がだされた。

『ゴミの収集限度・集積ゴミの処理方法・下山駅等で行政側に処理依頼済みなのか、出来ない場合の車内持込、自宅持ち帰りなのか。車両による行動の場合の想定なのか説明不足である等々』準備不足も否めないが、行動する意識を共用することが非常に大事であると思われた。

又、浅見副委員長から「行動することは非常に大切なことです、もっと大事なことは継続することです」とお話を戴き今後の、自然保護活動事業の重要な指針とおもわれた。

帰路、山口（自然保護委員長）・柳下（自然保護常任委員）両氏と色々な岳連の古いお話が出来、大変有意義な2日間だった。

参加者は桜草山の会・芝田以下9名、蕨ハイキングクラブ・中澤以下4名、浦和溪稜山岳会・中田、山岳同人埼玉・柳下、エコー山の会・平田、越谷山岳会・鈴木以下1名、我達人・信越山の会・山口、あゆむ山の会・岩井田、蓮田山の会・熊谷以下8名、石ころの会・澤田以下3名、大宮岳稜会・鈴木以下1名、戸田山の会・岩崎以下10名
委任状：田中以下62名 敬称略



《山芍薬》大変珍しい可憐な花です



バックの新緑が美しい信濃わらび山荘のテラスにて全員集合



自然保護・研修会にて熱心に討議する参加者

【秩父・二子山開山式】

(兼・新婚山頂祝福式)に参加して

4月29日に行われた第18回二子山開山式に小鹿野山岳会より招待があり、戸田山の会・岩崎会長に同行しました。登人より登山道を二輪草の群生が満開の股峠まで上がり、会場受付には小鹿野山岳会の柳原さんをはじめ、多くの関係者の出迎え戴き、それぞれの足具合にあわせて山頂に向かいました。

戸田のメンバーと一緒にダイレクト尾根に登り、3級近いボサの岩場をほぼ垂直に山頂までつめ上がり、会場地に移動しました。山頂に近い一坪程度の平らな場所にすでに祭壇が設えられ、狭い山頂、左右に人の群れ(約100人以上)、開式直前に県岳連の、加藤事務局長がソロで中央稜に登攀し合流、快晴無風の五月晴れの中、盛大に開催されました。

やがて地元宮司が祭壇の前で祝詞をささげ開山の御祝い・安全登山を祈りました。地元・小鹿野町長を始め、教育委員会・警察・消防関係者の玉串に続き地元山岳連盟及び県岳連関係者(岩崎・大野・三ツ木・熊谷・加藤・岩井田)が続きました。開山式を終えた後、引き続き祝福式が行われ二組の新婚夫婦のお祝い祈願、があり大勢の見守る中、祝詞を受け、玉串をささげて無事終了、狭い山頂にて祝いの酒を回しのみし、山頂を後にしました。

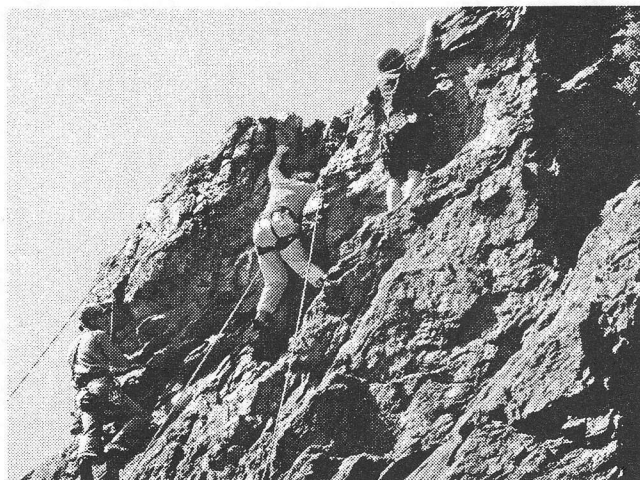
途中西岳のフェース下でクライミング中の元会員にばったり遭遇、近況を話して下山。何年ぶりの二子山に、必死に登った中央稜をまた挑みたいと思いがら後にしました。かつてのアップ下降ルートは整備され、頑丈なステンレスアンカーや鎖が要所に固定され、安全なルートになっていました。ローソク岩上部も整備され、登り易くなったそうです。

am5:30川越・am11:00股峠・am12:00山頂・

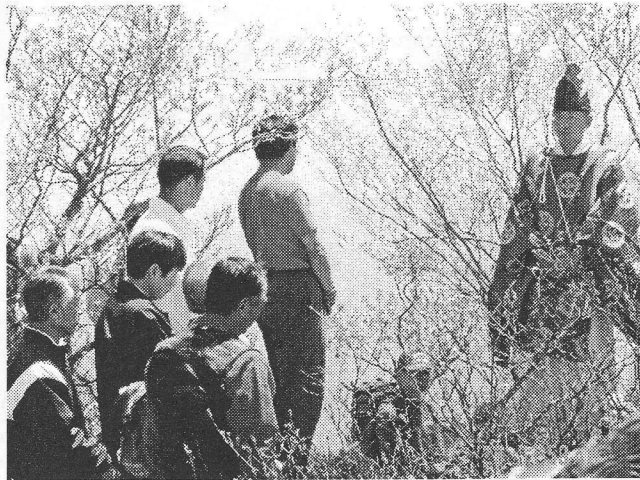
pm2:00下山・pm4:00寄居ソロ・山返しpm6:00・川越

平成16年4月29日

さいたま市岳連 あゆむ山の会 岩井田 正昭



日和田山・男岩上部クラックに挑む



快晴の山頂で行われた開山式で祝辞を述べる加藤事務局長

群馬県山岳連盟より左記の御案内がありましたのでお知らせ致します
埼玉県山岳連盟事務局

【群馬県山岳連盟 新役員】

平成16年5月29日

会長・星野 光

副会長・田中 成幸、羽野 順一、(新任) 角田 三男

監事・竹山 繁雄、水野金太郎

理事長・名塚 秀二

副理事長・佐藤 光由、小林 達也

常任理事・(会計)

常任理事・(総務部長・事務局長) 女屋 等志

常任理事・(編集部長)

常任理事・(遭難対策部長) 岡安 茂能

常任理事・(登山指導部長) 松永 幸雄

常任理事・(国体部長) 阿部 源

常任理事・(海外登山部長) 赤松 久宇

常任理事・(自然保護部長) (新任) 剣持 典之

常任理事・(事業部長) 小泉 俊夫

常任理事・(クライミング部長) 長谷川 勇

特別会員・関卓榮、齊藤 三郎 堀越 利通

事務所・(事務局) 女屋 等志 前橋市堀之下町494・2

TEL 027・269・4570 FAX 269・4583

【編集後書】

リハサール大会も無事終了・各実行委員会および優勝選手から沢山の感想文、写真を戴き、ありがとうございました。現場から、選手からの熱いメッセージをお届けできたかと思えます。まもなく迎える本大会に向けて、新たな気構えをもって望みたいと思います。

閑話休題

休日を利用して日和田山ヘトレニングがてら自転車往復してきた、雨あがりのせいで珍しく岩場には、殆んど人がいなく女岩・男岩をトップロープで独占。忘れかけたムーブも何とかおもいだした。

【miwaida@ma.biglobe.ne.jp】